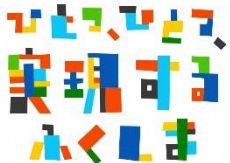


モモせん孔細菌病の防除対策について

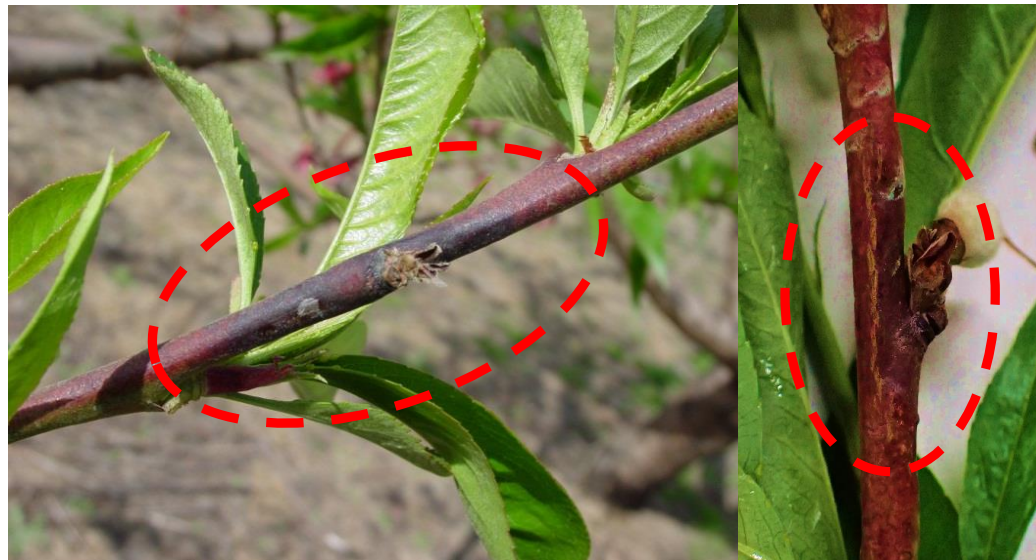
果樹研究所 病害虫科



1. モモせん孔細菌病について

1

□ モモの重要な病害であり、常発地帯での栽培は困難になることが多い。



1年枝での発病(春型枝病斑)



新梢での発病(夏型枝病斑)



幼果での発病

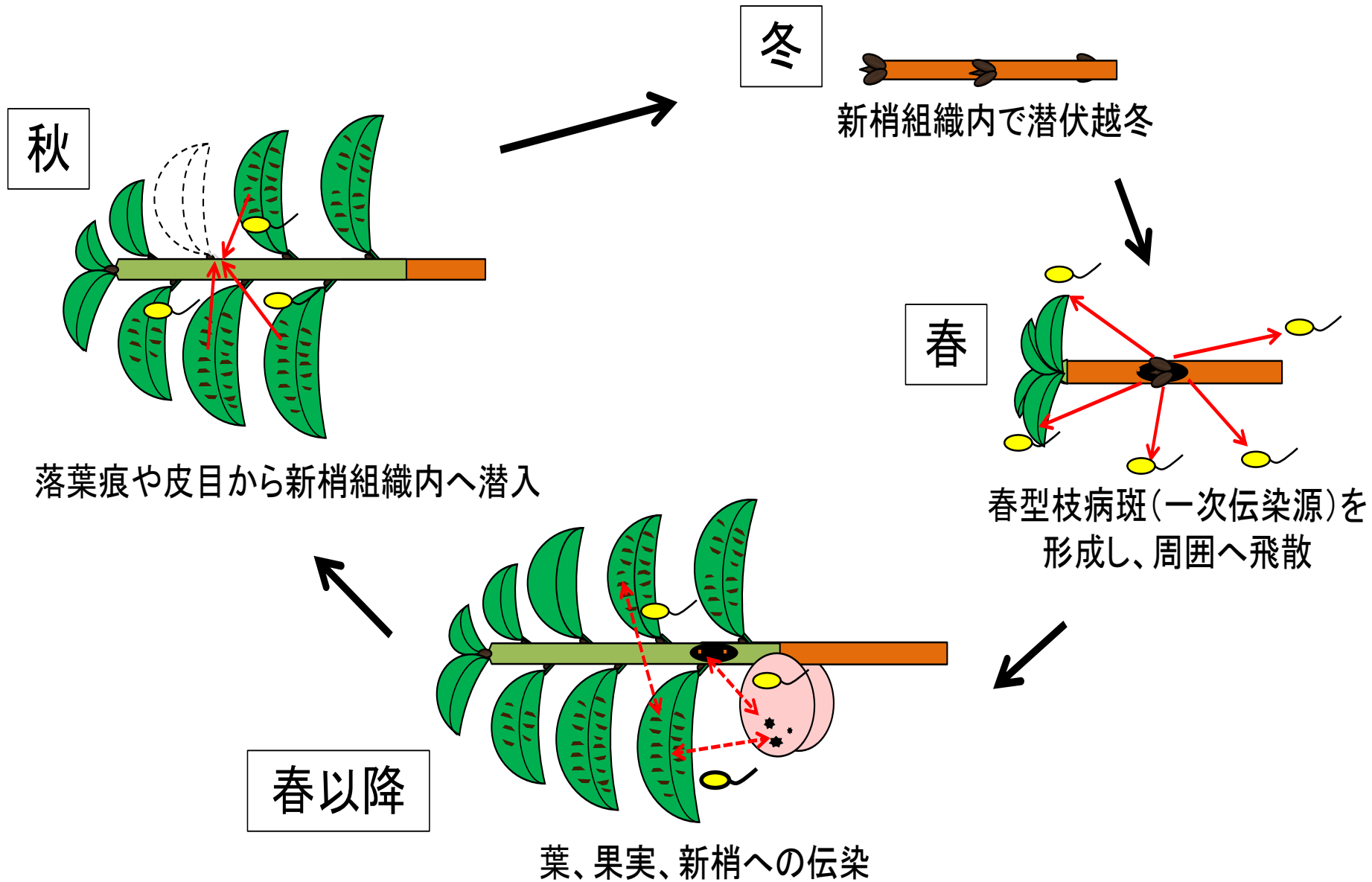


成熟果での発病



葉での発病及び落葉

モモせん孔細菌病菌の伝染環



◆病原細菌の感染から発病までの期間

【新梢葉】

16℃:16日

20℃:9日

25℃:4～5日

30℃:8日

【果実】

小指大:2～3週間

ピンポン玉大:40日以上

◆幼果は特に感染・発病しやすい性質があり、生育初期に感染すると発病程度も高くなる。



6月3日接種

6月24日接種

7月16日接種

7月29日接種

8月14日接種

図. 時期別の病原菌の接種による‘ゆうぞら’収穫果実の病徴(収穫日:8月28日)

品種と発病

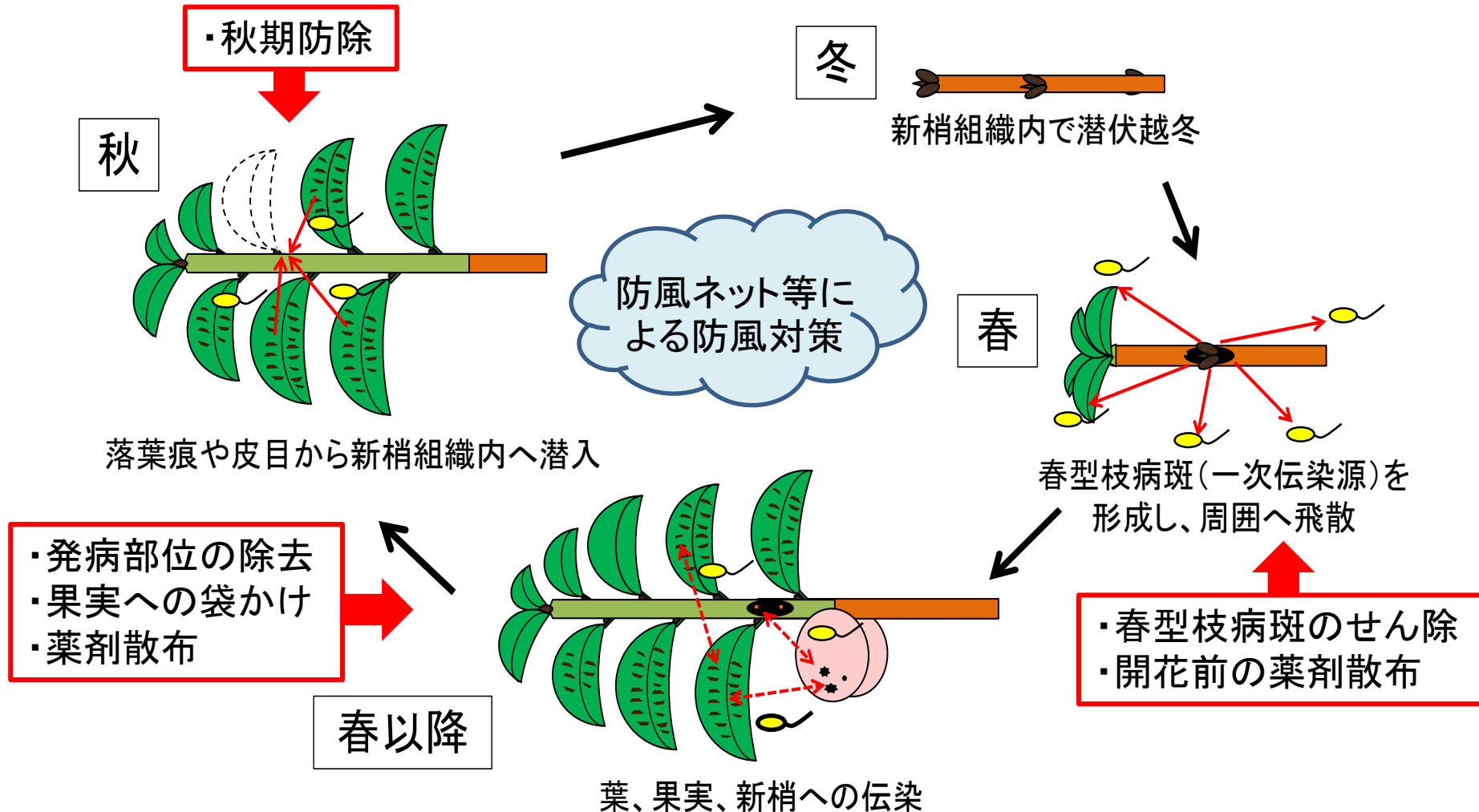
- ◆現在の主要品種には、**抵抗性を示す品種はない。**
- ◆果実の発病は、早生種ほど少なく、収穫期が遅い品種ほど多くなる傾向がある。

発病を助長する条件

- ◆**風当たりの強い園地、川や水田に隣接した多湿条件の園地**で発病しやすい。
- ◆降雨が多いと発病しやすく、台風の後には特に発病が著しい。

モモせん孔細菌病の防除対策

通常薬剤散布だけでは十分な防除効果をあげるのは難しい。
→ 耕種的防除も含めた総合的な防除対策が必要



耕種的な防除対策

(1) 罹病部位の除去

- 罹病部位の除去は、本病の重要な防除対策。
- 特に一次伝染源の春型枝病斑のせん除は、病原細菌の密度低減に有効。



図. 春型枝病斑とそのせん除の状況

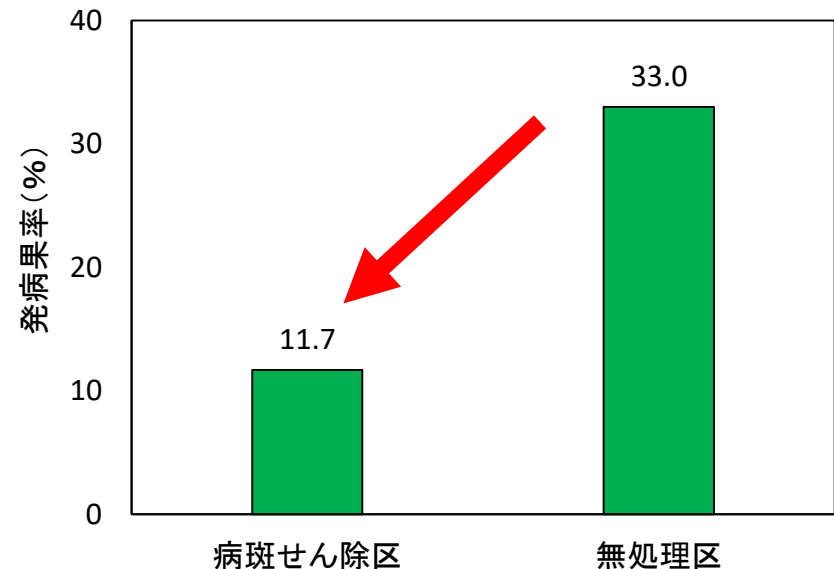


図. 春型枝病斑のせん除による防除効果
(福島果樹研、2017年)

農研機構生研支援センターが実施する革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)「モモ・ナシの高品質・安定生産を実現する病害防除技術体系の実証研究」の支援を受けて実施した。

春型枝病斑の発生に関する特徴

- **病斑の発生ピークは4～5月**であるが、多発生樹では7月頃まで発生が続く場合がある。
- 病斑は一年枝の先端部に多く発生する傾向がある。
- 病斑の初発生確認後に、新たな病斑が同一枝の別の部位に発生する場合がある。

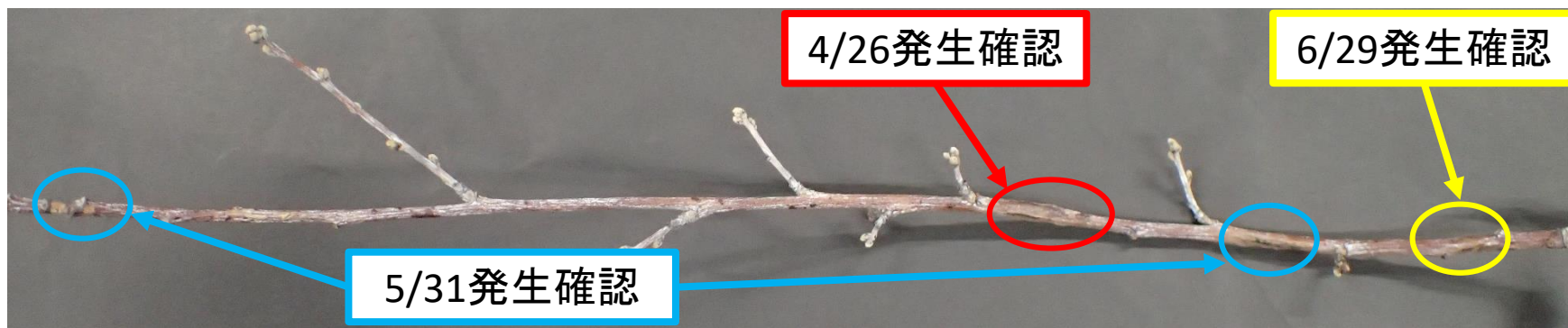
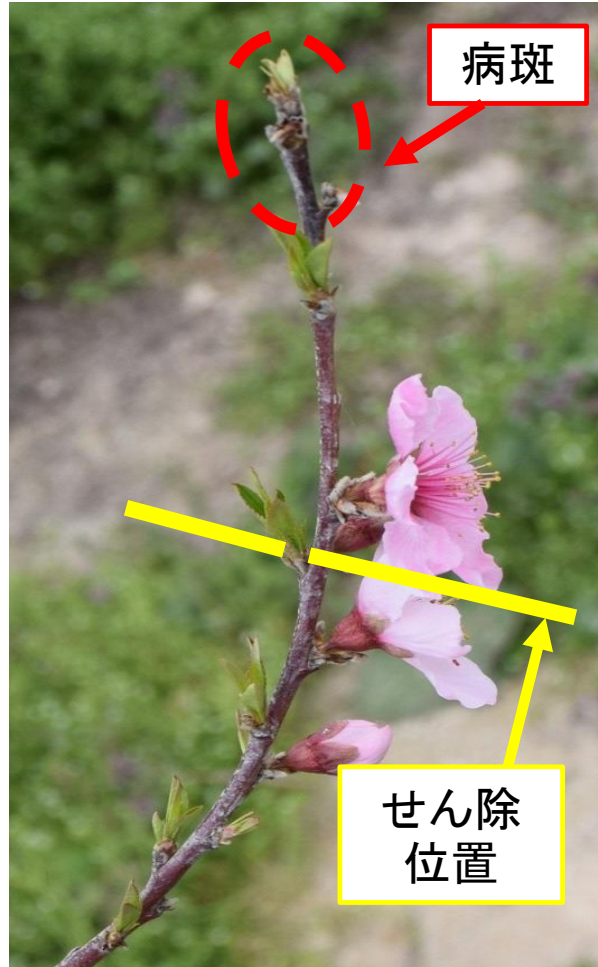


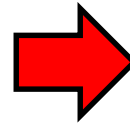
図. 同一発病枝での春型枝病斑の増加事例(休眠期の撮影写真)

- 病斑をせん除して残った枝にも、時間差で新たな病斑が発生する可能性が示唆された。

春型枝病斑のせん除方法の変更



【これまでの剪除方法】
春型枝病斑から4芽程度
戻してせん除する。



【新たな剪除方法】
可能な限り、基部まで切り戻す。

耕種的な防除対策

(2) 果実の袋かけ

□ 病原細菌の果実感染を防止することで、果実発病を低減できる。



図. 袋かけの実施状況

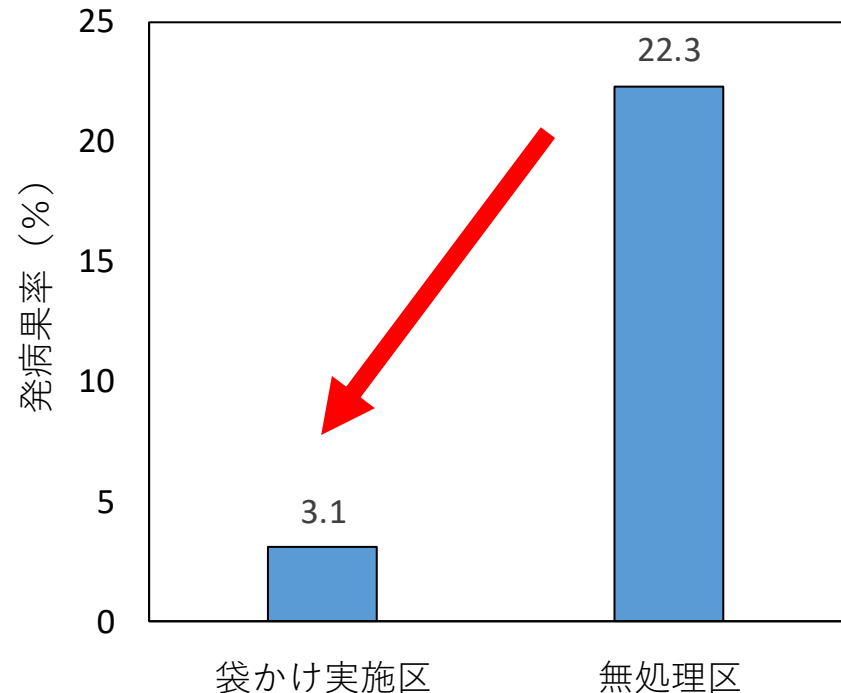


図. 袋かけによる防除効果
(福島果樹研、2017年)

農研機構生研支援センターが実施する革新的技術開発・緊急展開事業（うち地域戦略プロジェクト）「モモ・ナシの高品質・安定生産を実現する病害防除技術体系の実証研究」の支援を受けて実施した。

果実の袋かけ時の注意事項

- 春型枝病斑が多い場合や袋かけの実施が遅くなる場合は、病原細菌が既に果実に潜在感染しており、袋かけ後に発病するケースが多い。



袋かけをしても防除効果が認められない場合がある。



生育初期から防除を徹底することが重要！



図. 2016年袋かけ実施時の罹病果実・罹病葉

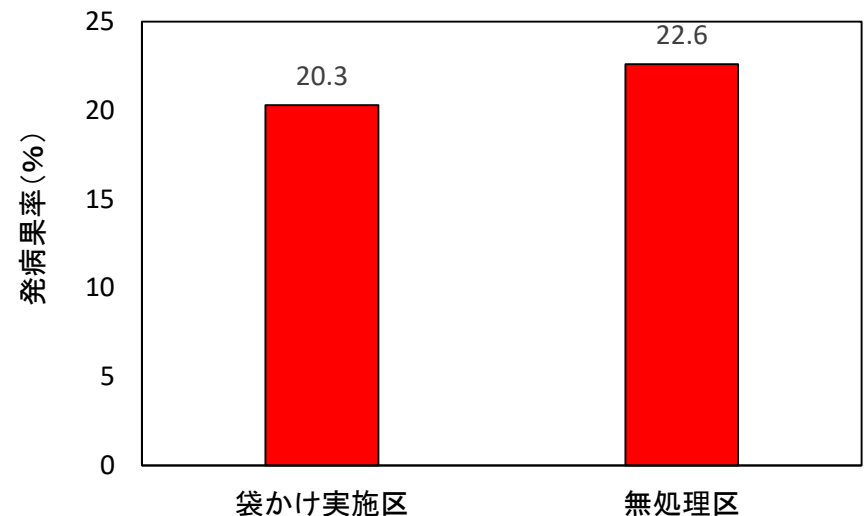


図. 袋かけによるモモせん孔細菌病の防除効果
(福島果樹研、2016年)

耕種的な防除対策

(3) 防風対策

- 風当たりの強いほ場では、防風ネット等による防風対策を実施することで被害は減少する。



図. 防風ネットの設置状況

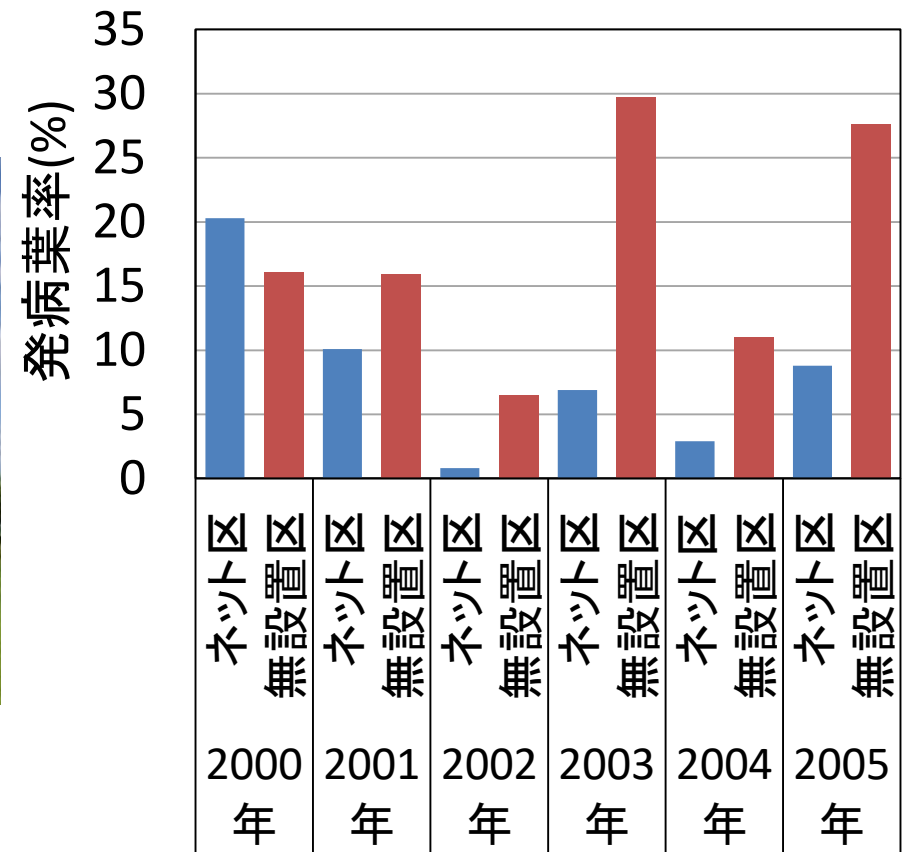


図. 防風ネットの設置による防除効果
(9～10月調査)

耕種的な防除対策

(4) 雨よけ処理

- 病原細菌の移動には降雨が必須になるため、雨よけ処理の効果は非常に高い。



図. 雨よけハウスの設置状況
(福島県伊達市、2020年)

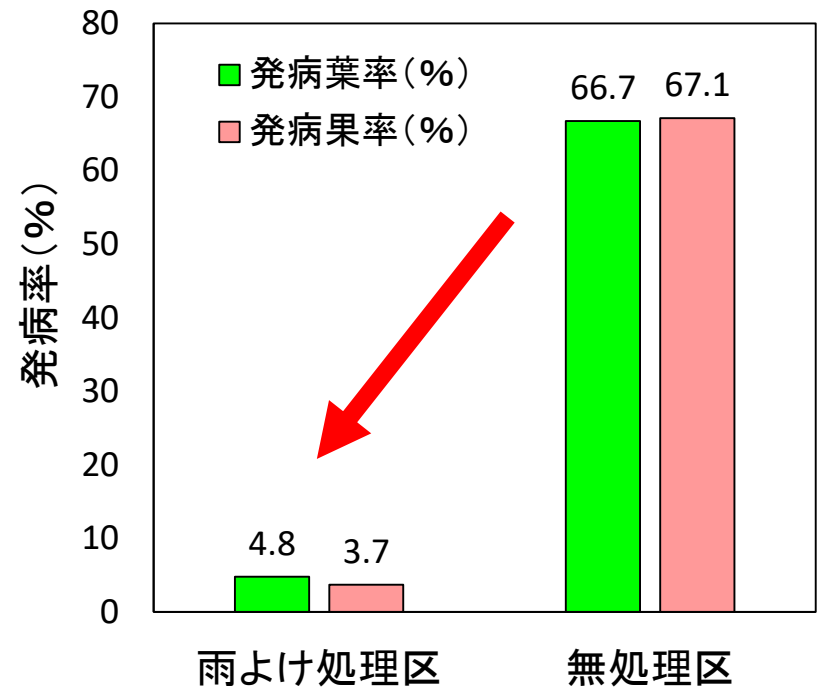


図. 雨よけ処理による防除効果
(福島県伊達市、2020年)

現地ほ場において総合的な防除対策の防除効果を検証



防風ネットの設置



春型枝病斑のせん除

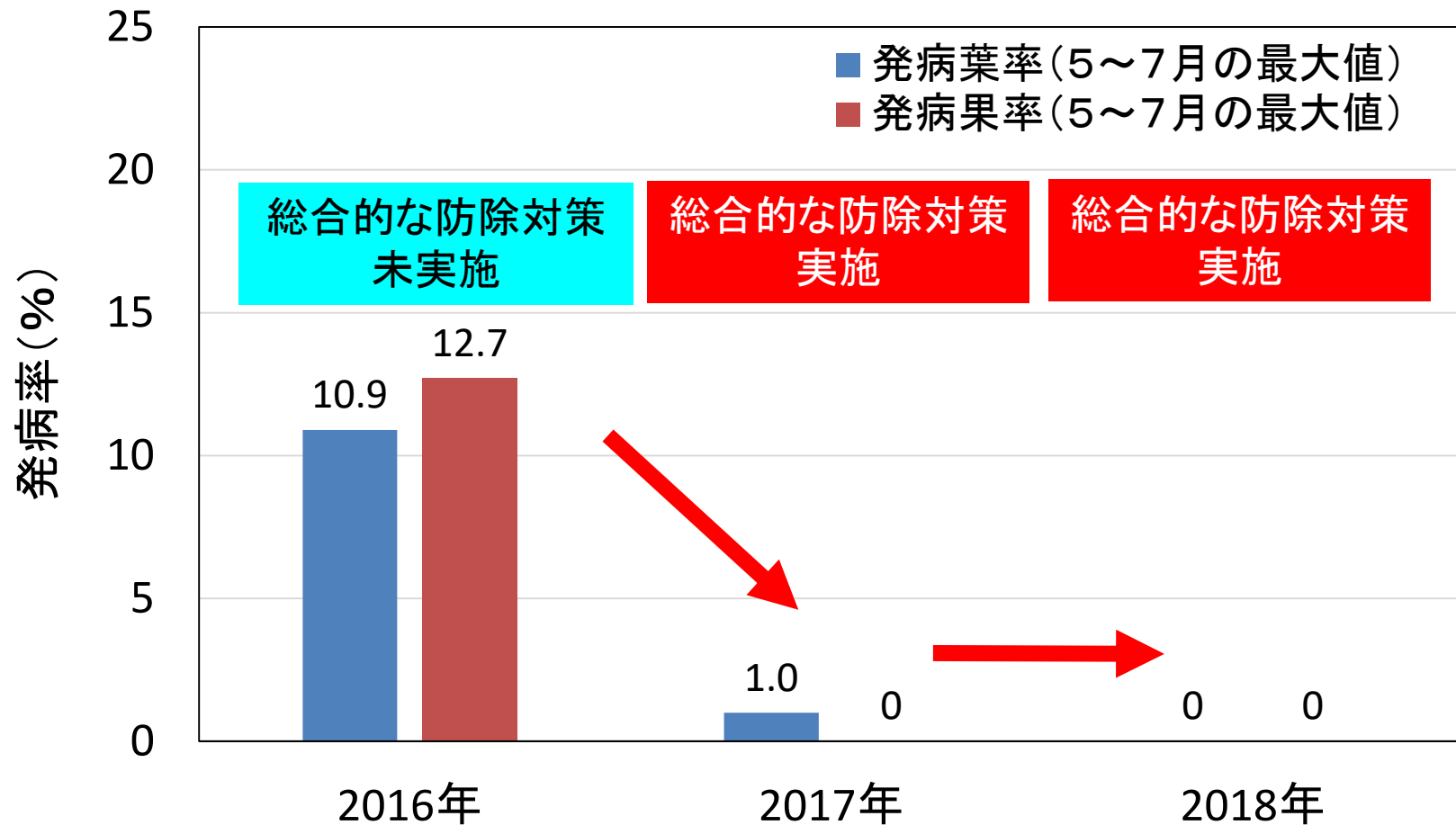


果実の袋かけ



薬剤散布

総合的な防除対策の検証結果（福島市現地ほ場）



□ 総合的な防除対策を継続して実施することの重要性を再確認。

モモせん孔細菌病には、総合的な防除対策が必須です

【防風ネット等の設置】



【病斑部の徹底除去】



【適切な薬剤散布】

最後に

9月上旬からは秋期防除の時期となります。

- 越冬伝染源の密度を低くするため、秋期防除は2週間間隔で3回確実に実施しましょう。
- 強い風を伴う雨で広く拡散するので、台風の情報に注意し、風雨の前に必ず防除を実施しましょう。